

本時のねらい

・別々で考えて解く方法と、まとまりを考えて解く方法の2通りの考え方があることを理解し、説明することができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・バラバラな絵を整理し、整理した絵を□で囲むことで、視覚的に立式をイメージしやすくする。
・タブレットでカードを作成することで、次時以降の学習において、作成したカードを用いて簡単な操作で考え方を確認するとともに自立へのヘルプカードとしても使用できる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

・タブレット ・発表ノート (sky menu class)

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	○自立活動 ・コグトレ (さがし算) ○問題文を読む。	
展開 (25分)	○2通りの求め方について、図を使って、考える。 ①バラバラになった絵を整理する。 【写真1】 ②整理したものを□で囲む。 【写真2】 ③②に合う式を立てる。 ④他の方法がないか考え、同様にバラバラになった絵を整理し、□で囲んだり、式を立てたりする。 ○考えたことを伝える。 ・2通りの考え方を自分の言葉で説明する。 ○カードを作成する。 ・2通りの考え方を「べつべつ」「まとめて」というキーワードで表す。 【写真3】	・「絵を動かし、整理し、□で囲み、立式する」という一連の操作を連動させることで、視覚的に思考を整理しながら、考えられるようにする。 ・「タブレット上の資料置き場への保存と活用」「今後の自立活動に活用」との目的で作成するカードを、自分で考えまとめた言葉で手書き入力をしていく。
まとめ (10分)	○練習問題を解く。 ・買い物場面を設定した問題を2通りの考え方で計算する。 ・どちらの考え方が計算しやすいかを考える。	・作ったカードを活用し、練習問題を解くことで、より効率的な計算方法について、考え深めていく。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1 バラバラになった絵を動かしながら、整理している場面



写真2 整理した絵を□で囲んでいる場面



写真3 考え方を「べつべつ」「まとめて」というキーワードにしたカードを作成している場面

児童生徒の反応や変容

バラバラの絵を整理しながら問題を解こうとしていた。文章だけでは立式は難しいが、試行錯誤できるツールで視覚支援をすることで、「式を立ててみよう」と考えながら操作し、自らしっかりと思考する姿が見受けられた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

文章問題が苦手な児童であったが、絵を動かし、整理し、□で囲むといった一連の操作活動を行うことで、立式に際し、何を求める式になるのかといったイメージが持ちやすくなり、児童の思考を促すことにつながった。絵が描かれた紙のワークシートより、自分で操作できるタブレットでの学習が効果的だったと思う。また自分でカードを作ったことで、今後自立していくためのヘルプカードとしての有効性も見いだせるものとなった。